令和４年度第３回徳島県総合教育会議　会議録

日時：令和５年２月２１日（火）１３：３０～１４：３０
場所：徳島県庁３階　特別会議室

（司会進行）
＜村山部長＞
本日はお忙しいところ御参加頂き、ありがとうございます。ただいまから令和４年度第３回徳島県総合教育会議を開催いたします。昨年１２月に行われました前回の会議以降、新しく横田賢二様が教育委員に御就任頂いておりますので、御紹介させて頂きます。

＜横田委員＞
どうぞよろしくお願いいたします。

＜村山部長＞
よろしくお願いいたします。
本来であれば委員皆様を御紹介させて頂くところですが、時間の都合により、お配りしている名簿と配席図での御紹介とさせていただきます。それではまずはじめに飯泉知事より御挨拶を申し上げます。

（あいさつ）
＜飯泉知事＞
本日は総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方には、大変お忙しい中、また大変寒い中、出席いただき、誠にありがとうございます。また新たに御就任なられました横田委員さん、どうぞよろしくお願いいたします。
さて、今年度の総合教育会議、大きなテーマがあります。今ある教育大綱を新たな形にバージョンアップする事であります。これまで既に第１回、そして第２回、開催をさせていただきました。
第２回は､もう１つの教育の方向性を示す教育振興審議会との合同の会議ということで、この教育大綱と教育振興計画の一体化を図っていく。今は実は計画年次など、少しずれる所があります。この一本化というのは実は過去の経緯がありまして、文科省の方からこの教育大綱を作るんだとなったときに、実は教育振興計画をもって、いわゆる教育大綱にしても良いという話がありましたが、本県の場合には、やはり教育振興計画と教育大綱はそもそも次元の違うものだということがありました。新たに教育だけではなくて、県政の中でもトップの計画として、この大綱を示させて頂いたところでありますので、この度それをパッケージ化していければと考えている所であります。
そうした中で、今、教育の置かれた環境は激変しようとしております。まずは何といっても３年を超えるコロナ禍。本来は学びの保障のために我々、全国知事会が提言をしたわけではないのですが、ＧＩＧＡスクールですね。こちら当初は、義務教育の世界でＯＥＣＤ諸国、ほとんどの所が１人１台端末だったところ、日本だけが３人に１人。本当に周回

遅れの日本という中で、文科省がいくら要求しても財務省が予算を付けないという状況が続いたんですね。そこで文科省が私のところ、前知事会長のところへおいで頂きました。「何とかならんだろうか」と、ちょうど政府主催の全国知事会議ありましたので、そこで時の安倍総理にあまりに情けないんじゃないんですか、ということを申し上げると「すぐにやろう」ということでＧＩＧＡスクール、４，５００億円がたちどころにつきました。

そして年が明け、まさかのコロナ禍、そして緊急事態宣言。これに前後して、学校が休業するということになりました。ということで急にこの学びの保障の問題が出て参りました。そこでこのＧＩＧＡスクールを活用してまずは、学びの保障をしっかりやっていこうではないか、こうした形も進んできたところでありました。

その後、デジタル田園都市国家構想という中でＤＸの主軸がこのＧＩＧＡスクールであれば、他県は義務教育の世界でありますが、光ブロードバンド環境の我々徳島県は、最初の段階から高校、特別支援教育、さらには公私を問わず、私学にもという形で、光ブロードバンド環境を活用しながら、まさに全県下でＧＩＧＡスクール展開をし、今では全国約半分の都道府県でそのような状況になりましたが、まだ全部が出来ているわけではないんですね。

ということで今、国としては全都道府県で高校、あるいは特別支援教育も、また私学も、このＧＩＧＡスクールがしっかりと行き渡るように、しかし徳島が何と言っても最初に提言をし、スタートをした県でございますので、さらにこのＤＸのモデルを打ち立てていく大変重要な役割を今、担っている所でもあります。

更には子どもさんたちに夢と希望となりますと、いよいよ２年と迫りました、大阪・関西万博、徳島は関西広域連合チャーターメンバーとして、誘致はもとよりのこと、成功に導かなければならない、大きな役割を得ている所であります。是非、新たな教育大綱の中には２０２５年、未来社会の実験場、また日本が周回遅れのＤＸを始め、あらゆる分野においてもう一度、世界のトップに立てるように、そうなると一番重要になってくるのはやはり教育ということになって参りますので、我々としてはＤＸ、そしてもう１つの２０５０年がターゲットとなっているＧＸ、これらをしっかりとこの教育大綱の中に打ち込んで行く。そして日本のモデルを徳島から発信をする、こうした観点で是非、委員の皆様方には臨んでいただければありがたいと考えるところであります。

そこで本日はまず骨子案をお示しをさせて頂きまして、こちらは各委員の皆様方から頂いたものを取りまとめさせて頂いているものでありますので、さらにこれをバージョンアップを図って頂きますよう、よろしくお願いを申し上げまして、まずは冒頭の御挨拶とさせて頂きます。本日はどうぞよろしくお願いをいたします。

＜村山部長＞

それでは議事に移ってまいります。これからの議事進行については飯泉知事にお願いいたします。

＜飯泉知事＞

それでは次第に沿って議事を進めさせていただきます。まずは事務局の方から今申し上げました、次期教育大綱、骨子案について説明を頂き、これをベースとして意見交換をす

ることができればと考えております。では事務局から説明をお願いいたします。

＜事務局＞
　事務局より「資料１」に基づき、概要説明。

＜飯泉知事＞
　ありがとうございました。それでは早速、意見交換の方に移っていきたいと存じます。それではまず、横田委員さんからお願いをいたします。

（意見交換）
＜横田委員＞
　よろしくお願いいたします。去年の１２月２４日からの拝命でございますので、それ以前の会議につきましてはよく分かっていない部分もあります。的外れなことがありましたらお許し下さい。
　まずは、この徳島教育大綱は、他県と比べ、先進的なものに取り組まれているという話がありましたが、他県に誇ることができる、独自性のあるものについて、具体的に教えていただければと思います。
　また、事務局から御説明がありましたとおり、取り巻く環境や、展望を踏まえて、基本方針及び「人財」の具体像を掲げ、１０年先の徳島県の教育のあるべき姿をビジョンとして捉えているということで、非常に素晴らしい内容だと思いますが、現時点で未達成の項目等がありましたら、その課題解決に向けて、今後４年間どのようなことに取り組んでいくのか、この２点について教えていただきたいと思います。以上です。

＜飯泉知事＞
　ありがとうございます。横田委員さんからは、他県との違い、具体的にこんなところに特色があるよといったお話。それから今後の課題を考えたときに、まだ未達成のもの、こうした点を、今後の新しい計画に活かしていくために是非、出していただきたいと。この２点、事務局いかがでしょうか。

＜事務局＞
　教育政策課でございます。
　まず１点目、大綱の独自性というべき部分でございますが、一つはやはりＧＩＧＡスクール構想かと思います。本県の場合、いち早くサテライトオフィスの取組でありますとか、ＩＣＴネットワークなどを整備してきたというメリットを生かして、特にＩＣＴを活用した教育に力を入れているところであり、１人１台端末についてもコロナ禍の中、全国に先駆けて導入し、それを活用したコロナ対策に取り組んできたところですが、その辺りを今後更に６Ｇの時代を見据えて、進化をさせていくといったところに特色があるのではないのかというのがまず一つでございます。
　もう一つは、現大綱を取り巻く情勢変化や展望の中にもございますが、やはり全国モデルとなる国府支援学校の整備でありますとか、全国初となる県立夜間中学校の開校、ダイ

バーシティ教育、これを全国のモデル的な形で取り組んでいるところでございます。
特別支援学校における設置基準の変更に素早く対応して、国府支援学校の整備に活かしたり、また、しらさぎ中学校は、初の県立夜間中学校ということで、今も全国からたくさんの方々が視察に訪れていただいております。そうした辺りが、本県の特色ではないかと考えております。
次に２点目、未達成の項目についての対策ということでございました。現教育大綱の期間につきましては、知事から冒頭の挨拶で申し上げましたように、コロナ禍の中での取組の実施ということが多々ございました。そうしたことから、なかなか全国各地との行き来が制限され、例えば、全国との交流事業といったものについては、多分に影響が出てきたところでございます。
事業を実施していくことが難しい中でも、いろいろな工夫をもって、取り組んできたところでございますが、今後、アフターコロナの時代がはじまることを踏まえ、そうした工夫してきたところなどを活かし、更に取組をブラッシュアップさせ、これから検討が進んで参ります教育振興計画の中において、しっかりと盛り込んでいきたいと考えております。以上です。

＜横田委員＞
ありがとうございます。しらさぎ中学校は私も見学させていただき、とても感動しました。

＜事務局＞
ありがとうございます。

＜飯泉知事＞
それでは、次に岡本委員さん。よろしくお願いいたします。

＜岡本委員＞
徳島の教育大綱であるということを思うときに、やはり徳島県はこんな教育をして、こんな人材を育てていくんだということが、教育者も地域の方も、一目で見て分かるような、もう少し明確な「徳島県として」というところが必要なのではないかと思います。
資料１の課題の中に、現在の徳島県を取り巻くとありますが、やはり徳島県を取り巻く課題としては、過疎化が進み、魅力も少ないと言われ、少子高齢化が進行しているというところが大きくあると思います。少子化になると学校がなくなっていく、学校がなくなっていくと地域の元気がなくなっていく、子育て世代がいなくなると、それはもう大きな問題でありまして、改善していくためには、私はやはり教育の力が必要だと思っております。徳島県には資源や産業や文化や人材など、たくさんの魅力があるわけですから、その地域の魅力を活かして、教育活動に盛り込んでいくことが必要ではないかと思います。
また、昨日の新聞に、企業がないから他県に行くとありましたが、私は徳島は他県や都会にはない素晴らしい魅力がたくさんあると思っていまして、それに気づけていないということもあるのではないのかと思っています。教育の力で、魅力を掘り起こして、そこを

創造していくような教育活動をしていくべきだと思います。今まで総合的な学習などで地域と関わってきましたが、おいしい所取りで失敗をさせない、子どもたちにいい所だけを体験させるということが多くあったのですけれど、やはり子どもたちが本気で参画して、失敗をしたり、課題を見つけて解決したりしていくような力を、教育の中で育んでいかなければならないのではないのかなと思います。

高校の中でも、特色化・魅力化などの推進が行われており、私も非常に期待しておりますが、徳島はコミュニティ・スクールとか地域連携協議会が多いと聞いておりますので、そういったところと連携してつながって、本当に子どもたちの豊かな力を育む教育をしていただきたいと思います。

それと私の所には、以前から後輩たちがいろいろなことで電話を掛けてくれますが、この１、２年は誰もが疲弊していると感じます。後輩たちは、管理職も含め３０代の人もいるんですけれど、本当にくたびれて、いつまで続くのか、持続不可能な教育界だと漏らすような内容の電話もあり、私は一生懸命励ますわけですけれども、一番の原因はやはり、教員不足だと思います。

本当に全国的にも教員不足が叫ばれていますので、そこに大胆な策を講じて、以前の会議でもお話ししましたが、インターンシップを活用して、人材不足の一助にしていかなければ、人がいないのではないかと思います。せっかく他県から、教育者になりたいと学びに来る学生がたくさんいるわけですから、その人たちを修行させて、徳島で教員として仕事をしてもらえるよう育成していかなければならない。そのためには、例えばインターシップをする学生に評価としてポイントを与え、そのポイントを採用に活かしていくなどの取組をして、他県の方が徳島の教員になりたいと思ってもらえるようにしていかなければいけないと思います。先ほど申し上げたとおり、徳島では地域と連携した面白い教育活動が行われております。長野県の伊那市なんかもそういう取組をして、他県から人が来ていると聞いています。多くの方が自分の子どもを徳島で学ばせたい、そして徳島の教員になりたいと思うような教育がなされるためには、この大綱の策定という転換期を大事に考えていかなければならないと思います。

産休、育休を取るのが非常に難しくなって、本当にそれもはばかられるような時代ですが、産休、育休が安心して取得でき、男性も安心して育児休暇が取れるような、魅力のある徳島県になっていく施策を連携して考えていくことが必要ではないかと思います。

＜飯泉知事＞

ありがとうございました。岡本委員さんからは、一目で徳島の教育の特色がわかるようにしていくことが重要なんじゃないか。また主権者教育やコミュニティ・スクールの話については、逆に徳島の強みではないかといった話もありました。

しかし、全体的に現場が疲弊をしきっている。当然これは教員不足、あるいは教員がありとあらゆることをしていかなければならない。こういった意味で何とか先生方の負担感を拭っていく、その中で前回も御提案をいただいた、インターシップも場合によっては働いてもらおうではないか。これは鳴門教育大学などで学んでいる人たちは即戦力になるわけですから、大学で４年間座学で学ぶのではなくて、教壇に立った方がいいですね。もちろん、１人では教員免許はないので立てないですが、教育助手として、これは今までのＡ

ＬＴもそうですし、最近ではＩＣＴ支援員もそうでありますので、そうした新たな制度を打ち立てるべきではないか。こうすると、一石二鳥ですね。人手不足も解消にもなりますし、新たな教員を志す人達がもう即戦力として入って来て頂くことが出来るということになりますので、この点については鳴門教育大学との御相談だけではなく、文科省に政策提言をして、例えば運転免許の場合、仮免許というものがあるわけなので、仮免の先生というやり方もあって、お手当も出すべきと思うんですよね。ドイツは現にそうなっているわけですので、ぜひ今の点を、教育委員会あるいは政策創造部のほうで、政策提言という形で少しとりまとめてみると、文科省も渡りに船ということになる可能性がありますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。次に河野委員さんよろしくお願いします。

＜河野委員＞

よろしくお願いいたします。

この教育大綱の骨子案や、新旧の対照表も解りやすく、次に向けての徳島県の取組状況、こういうことをやっていくんだということがよく分かりました。

その中で、私はスポーツ協会に所属しておりますので、一番気になるのが部活動の地域移行と働き方改革です。人財の具体像の最初に書かれています、「夢と希望をもって自らの可能性を伸ばし～」というところですが、こういった面で部活動は、文化・運動ともに大きな要素を持つのではないかと思っています。

来年度から移行していく中で、本当にやりたいことを地域でやれればいいのですが、場所も必要ですし、保護者の負担も大きくなるため、そういったところで、夢を諦める子どもが出ないよう、どうにかしなくてはいけないと思ってます。どういった方向にいくのか本当に今、試行錯誤されていることだと思いますが、子どもたちが本当にやりたい事を一生懸命に出来るよう、取り組んでいただけたらと思っております。

それから教員の働き方改革で、地域移行にも関わることですけれども、兼職兼業の申請で教員も地域に関われるということを伺っておりますが、勤務時間の縛りがある中で、やっぱり負担が大きくなって、教員が疲弊してしまうのではないかという心配や、学校の時間外勤務を少なく書いて、そちらに行きたいという人がいるかもしれないし、逆もあるかもしれません。その辺りをきちんと整えていく必要があるし、いろいろと考えていく必要があるのではないかと感じているところです。以上です。

＜飯泉知事＞

ありがとうございます。

大きく２点、部活動の地域移行とやはり教員の働き方改革、でもこうしたものの中で目指すべき方向というのは、子どもさんたちがとにかくやりたいことがやれる、そうした環境をいかに作り出していくのか、言葉で言うのは簡単なのですが、なかなかその方向性が見出せないのが今の現状ではないか。こうした点を御指摘をいただきました。ありがとうございました。

それでは、次に三木委員さんお願いいたします。

＜三木委員＞

様々な活動を聞かせていただいて、ＧＩＧＡスクールなど本当にいろいろな事が便利になってすごいなと、またそれによって自身の生活がすごく豊かになることは、とても良いことだと思います。ただ一方で、便利さを求めすぎると、子どもたちは楽な方を選んでしまうということが、すごく多いなというふうに思っておりまして、楽をすることばかりに意識がいってしまうことを危惧しております。

そのバランスを取ることはとても難しいと思いますし、繊細な事柄も多くあると思いますので、簡単にはいかないことかもしれないですが、楽して得たものは身につかない、次への創造に続いていかないという思いがありますので、もう少し子どもたちが苦労や大変さを実感してやり遂げるという教育を考えていただけたらと思っております。

夢と希望を持って自らの可能性を伸ばし、個性を発揮しながら「果敢に挑戦する人財」というのは、少し考えが古いのかもしれないですが、そういった艱難辛苦を乗り越えた上で、培われていくものが多いのではないかなと思っております。

また、人権教育にあるいじめ問題・不登校への対応ですが、いつもこういう場でお話させていただいているんですが、今、徳島は先進県としてデジタル化が相当進んでおります。対面での教育の素晴らしさというのは、身をもって育ってきた者としてすごく分かっておりますが、多様性を認め合うという点からも、どうしても対面についていけない子どもたちには、もう最初から対面でなくてもいいというものをもっと作ってあげてもいいのではないかなと思っております。

今だと、対面について行けなかった子が、仕方なく通信などに行くこととなり、挫折感を持ってしまうという状況が多いのではないかと思います。もちろんそうでない子もいると思いますが、自分が自信を持って取り組める教育環境の選択肢として、そういう教育制度を作っていってあげることが本当にいろんな意味で多様性を認め合うことになるのではないかと思います。

学校現場で、こうであらねばならないという、型がかっちりとしていることを、１回取り外す作業、すごく大変なことだと思いますが、必要なのではないかと思っています。

その上で、人が自由を得ることに対しての義務とか責任の在り方も、一般常識としてきちんと身につけさせるという取組もしてほしいと思っております。楽しかったら何でもいいやっていうような人が、最近では不適切な動画をあげてしまうことなどが多くなっているのではないかと思っております。

対面でなくても、いつでもどこでも誰でも勉強することのできる環境が整えば、社会人になっても、仕事の合間などでスキルを上げるということへのハードルは下がっていくのでないのかなと思っております。

あと、徳島ならではの郷土愛ということで、私自身が阿波人形浄瑠璃をやっているからということもありますが、今後、大阪・関西万博を見据え、世界に向けて発信していく上で、例えば英語で語りをして、徳島から世界へ発信なんていうことができたらすごく楽しいのではないかなと思っております。人形浄瑠璃の基礎をしっかり学んだ学生が行うことによって型を崩し過ぎず、英語教育にも結びつき、その上で型を外した発想ということで、楽しくて意義のある取組を郷土愛の中で入れていっていただければと思っております。長くなりましたが以上です。

＜飯泉知事＞

ありがとうございました。多くの点を頂きました。ＤＸ、確かに便利になるけれども、便利になり過ぎて本当にいいんだろうかということですよね。艱難辛苦のその果てに夢が開けてくる、我々、昔はそういう風によく言われて、巨人の星の星一徹ではないですが、とにかくスパルタ教育で、その中でぐっと涙を噛み殺して、そして巨人の星を掴むんだ、という話があったわけなんですが、最近、そういったど根性漫画というのがなくなりました。しかし、その一方で、例えば鬼滅の刃が典型なんですが、必ず出てくる共通語があるんです。それは、「限界を超えろ」なんですね。これを師匠であったり、上司であったり、先輩が、くじけそうな強敵を目の前にした場合に必ず言うのが「限界を超えろ」。限界を超えた先に新たな境地が開けて、ランキングも上がっていくわけです。ゲームの世界みたいな経験値を上げていく、つまり強いキャラに当たらなければいつまで経ってもレベルが上がらない、ステージは上がらないんですよね。

なので、新しいＺ世代の子たちというのは、実はそういったど根性もの以上に限界を超えて頑張るというところがあるんですが、ただ自己主張しないんです。ネット上では饒舌なんですが、こういう場ではなかなか意見を出さないんですね。だからそういった形というのは、違う形でわりと引き継がれてきているということも、我々としてはしっかりと知っておく必要があるのではないか。

また、郷土愛ということで、人形浄瑠璃のお話が出ました。三木委員のおっしゃったとおりで、実はユネスコのパリの本部に本願寺文化興隆財団が、東本願寺のことですが、例えば能、歌舞伎、狂言、阿波おどりなど、さまざまな日本を代表する文化を持っていってくれたんですね。過去の中で一番のパリジャンの人たちが入って大喝采をした演目、そのジャンルは何かというと阿波人形浄瑠璃だったんです。

これは大谷暢順さんが言われたんですけど、やはり向こうはマリオネット、人形文化が芸術なんですよね。ただし、わりと小さい箱の中でやる。ところが阿波人形浄瑠璃は３人遣いで、そのうちだんだんと人間に見えてくる。ここは文楽との違いなんですよね。ということで、史上最高の入り、パリ・ユネスコ本部で入ったのが、実は阿波人形浄瑠璃ということがあります。そうした意味では、今おっしゃっていただいたその文化を持つ徳島ということですよね。二度の国民文化祭で新しいモラエス座、今ではとくしま座ですけど、こうしたものもできましたし、寂聴さんに口語調で「モラエス恋遍路」を作っていただいたり、「義経街道娘恋鏡」も作っていただいて、そこの曲をつけていただいたのは、三木委員さんなんですが、やはり新しい文化に変えていく、でも本筋は変えない、こうした点が世界では受けるとということがありますので、まさに英語を活用して、字幕なくやるというのも一つあるかと思います。今は、スーパー歌舞伎を英語でやったりしますから、そうした点は我々としてもしっかり英語教育にも繋がってくるということになるかと思います。ありがとうございました。それでは島委員さんお願いいたします。

＜島委員＞

重点項目にありますＤＸデジタルトランスフォーメーションについては、世間でもよく言われるようになっていますが、言葉の意味や定義については、まちまちな理解になって

ることが多いかなと思っております。

実は昨日も企業同士で集まり、ＤＸの勉強会をしましたが、やはり参加者の理解もバラバラだったんですね。ビジネス上のＤＸについて、経産省の定義は、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」とあるので、これはもうＩＴによる業務改善にとどまるものではなくて、ビジネスモデルの転換くらいになっていないといけない。レンタルビデオが、アマゾンプライムやネットフリックスなどの配信サービスにころっと変わる、それぐらいのことを指すと講師の先生から御指摘いただきました。

教育ＤＸとは何ぞやということが、先ほど三木委員からもありましたけれども、対面で行わないということも、型を外してということも非常に大事なのではないかなと思います。

また、ＤＸを提唱される場合、行政の方の仕事の進め方も変わる必要があるんじゃないかと思っていまして、この会議なども岡本委員がよくおっしゃるように、どこかの市町村の学校で担任の何割かが不足しているといった場合に、例えばクラウド上にシートを作成しておいて、そこに各学校からアクセスして現状の先生の配置状況というのを入れていただいたら、どこが足りてるのか足りてないのかということが一発で分かります。そういう資料をお示しすることによって、教員数に予算をさかなきゃいけないということにも、より説得力が増すかと思いますので、行政上のクラウドは規制があると聞きますが、ＤＸを提唱されているのであれば、本当に便利なものは入れていくべきかなと思います。

教員の方々が普段の業務でＤＸを取り入れることで、仕事が非常にやりやすくなったということを実感してもらい、教育ＤＸを進めていかなければと思ってもらうためには、教育ＤＸについて、みんなが同じイメージを持てるようにするべきというのが一つでございます。

また、もう一つ重点項目に「ふるさと徳島への誇り、愛着を持ってもらう」とございます。実は午前中に、キャリア教育推進協議会に参加していたんですが、若者が徳島に残る、あるいは１度出ていっても戻ってきて活躍したいと思ってもらうことは、企業人としてもすごく大事なことだと思っています。そのポイントは子どもたちに徳島の経済や文化、歴史に対して、いかに誇りを持ってもらえるかだと思うんですね。

例えば、藍商人の歴史は学ぶべき点が非常に多くて、もともと吉野川の氾濫を利用した地の利を生かした商品作りされていたわけですし、渋沢栄一の実家も藍商人でした。全国に輸出していたが、インドから安い藍が入ってきて、価格競争となり、やがて化学染料に置き換わって衰退したなんていう歴史は非常に学ぶべき点が多いと思いますし、そこで負けずに一部の方々は別事業に展開して生き残っておられます。このことは実に示唆に富む話で、外国の方にはこのような話が非常に受けるといいます。また、その他にも大塚製薬さんなど世界的企業になっている事例もあります。

そこで、例えば子どもたちがその当時の藍商人の立場だったら、どんな方法で危機を乗り越えるのか、チャンスに繋げていくのかというのを話し合うこともいい勉強になると思いますし、同時に我らも先人がどうやってきたのか学ぶ機会になると思います。

今の子どもたちが世に出るときには、ＡＩは更に発展していて、単純作業はロボットに置き換わるということも進んでいると思います。人間だからこそ生まれてくる発想や行動

力が大事で、いつも申し上げていることですが、答えのない課題に対してみんなで相談して仮説を立てて実行する、その繰り返しが人間だからこそできる活動ではないかと思います。新たな価値の創造に果敢に挑戦し、地域のために行動していく人材を育てていくためには、そういった活動が大事かと思います。私からは以上です。

＜飯泉知事＞

ありがとうございました。島委員の方からはＤＸのイメージがバラバラでは困るのではないかと。徳島の場合、教育ＤＸはこうあるべきといった１つの方向性をしっかりと打ち出して、それを教育現場、あるいはこれを支える教育委員会はじめ、関係の皆さん方と共有するべきではないかという御提言いただきました。

また、経済だけではなくということで、キャリア教育が非常に重要ですよと。藍商人・藍の話を例えてくださいまして、非常に海外の皆さんにストーリー性が受けると。確かに海外、特にヨーロッパの皆さん方というのは歴史あるいは文化を大切にするんですよね。日本のことわざの温故知新ということで、やはり昔のベースに則る形で新たな境地開拓をしていく、そうしたものの中で、ＡＩにいかに置き換わっていくのかという話がありました。これは万能ではないんですね。ＡＩの中に何を仕込んでいくのかが勝負ということで、よくＲＰＡというのが今行政の分野、あるいは企業のバックオフィスでも使われているんですね。これは働き方改革まったく関係ない。コンピューターの中で、ロボットが動いていて３６５日・２４時間本当に頑張ってくれるんですが、実はコマンド命令、つまり命令をしっかりと定めておかなければ無為無策に働いてしまうということになって、そのプログラミングが非常に重要、つまりプログラミングをする人の教育が重要ということになって、今、教育現場では小学校からプログラミング教育が徹底的に行われている。

しかし、教える人がいないというのがまた頭の痛いところなんですよね。だから理屈はわかっているんですが、それに対応する人たちをやはり作っていかなければならない。そういったことに繋がってくるのではないかと思います。

どうもありがとうございました。 それでは教育長さんの方から総括も含めてお願いいたします。

＜榊教育長＞

それぞれのお立場から御意見いただきましてありがとうございました。どの意見も新しい徳島教育大綱の中でしっかり取り入れて活かしていきたいと思っています。

私からは、教育行政の立場ということで、３年間のウィズコロナから、これからはいよいよポストコロナ新時代へ向かっていくにあたって、新しい教育大綱の骨子で示された人材育成を具現化するためには、子どもたちや先生方、また学校をサポートするということが非常に重要であるということをお話させていただきたいと思います。

まず、子どもたちは、ウィズコロナの中で、自尊心や自己肯定感を持つという取組が本当に少なかったと思っています。これは、全国学力テストで、自分には良いところがあると思いますか、という質問があるんですけれども、本県の子どもたちの順位は全国平均より少し下ぐらいであるという状況に表れています。

でも、徳島の子どもたちは、本当はすごく力を持っていると思っています。やり方が分

からない、出し方が分からないというところが多分にあると思うんですけど、力はあります。うまく指導してあげれば、努力していくという真面目なところはあるので、鳴教大さんと連携して先生方の授業改善を行い、正しい指導、適切な指導、効果的な指導を行ってきた結果、全国学力テストにおいて中学校では全国５位という素晴らしい成績を出してくれました。小学校はまだまだそんなに高い数字ではないんですけど、小学校できちんと学べていない子どもが、中学校でいきなり５位になったりすることはないので、これはもう見せかけの数字でないと思っています。

本当は力がついてきている子どもたちなんだけど、なぜか自信が持てていない。やはりこれからは、子どもたちが自信を持てるための取組をしていかなければいけないと思っています。その一つが、子どもたちに結果を示してあげることだと思います。自分たちができた、分かった、うまくいったということを本人に見えるような形にしてあげる、そういったこだわりを持って教育を進めていくべきではないかと思っています。

２つ目は教員についてです。先生方はコロナ禍の中でもしっかり教えていただいて、努力していただきました。本当に感謝をしています。岡本委員から疲弊しているというようなお話もありましたが、先生方は本当に身を粉にして、子どもたちの指導に当たっていただいております。ウィズコロナになる前の時に比べ、働き方改革を進めてきておりまして、教員の研修時間を思い切って４分の１減らしました。もともとの時間数を減らし、またWEB会議でできることはそちらに切り替えながら、負担を減らせるところはしっかり取り組んでいるところです。

一方で、ＤＸ・ＧＸというのがものすごい勢いで進んでおりますので、新しい学びに対応するため、教員の方々にはしっかりと研修をしていただかなければならないと思っています。ただし、研修をして分かって終わりというのではなく、それを子どもたちにどうやって返していくか、授業の中でどうやって使っていくかということを考えていただかなければなりません。研修で得た知識を実践で磨いていくという取組を継続することによって、教員の質も高まっていくと思っていますので、研修の結果が子どもたちの成長にダイレクトに結びついていくような仕組みを考えていきたいと思っています。

３つ目は学校についてです。これは端的にいいますと、知事からもありましたように、この学校に行くことで夢が実現できる、逆に夢を追いかけるためにこの学校を選んだというような学校づくりが必要だと思います。特色化、魅力化を進めておりますが、特別支援学校、特別支援教育の世界では平成２４年に知事のご英断で、みなと高等学園、全国でこんな学校は他にないというレベルの発達障がいの学校ができました。発達障がいの子どもたちというのは、それまで社会的、職業的自立がすごく難しいと言われたんですけど、特別支援学校で本当にしっかりとした学びができれば、自立して社会に出ていけるはずだと、そういう知事の強い思いがあってできた学校だと思っています。

実際、発達障がいの子どもに、自信や強みを持って卒業してもらうため、技能検定でありますとか、新商品開発、農協・農業との連携、地域貢献など様々なことをやります。それらに取り組むことによって、通常の特別支援学校では考えられないくらい高い、9割近い就職率を誇っています。そうしたことから、一方では残念なことに、定員を設けてしまわなければならなかったので、合格ができない子どもも出てきています。

では、どうしてきたかといいますと、みなと高等学園のノウハウを、国府・阿南・池田

など、様々な特別支援学校に横展開をして、それぞれの学校が特色化、魅力化を図って、どの学校に行ってもみなと高等学園のノウハウを持っている、就職して社会に出ていける、そういった仕組みに、横展開を進めてそれぞれの学校が努力をしてもらっています。そして、そういうやり方を高校にも取り入れることは可能であると思っています。どの高校に行ってもいろいろな学びがあるので、全ての高校で特色化、魅力化に取り組み、自分に合う学校に進んで夢を追いかける、夢にチャレンジする、そういう高校づくりをこれからやっていけたらと思っています。

先生方がエビデンスに基づいた指導をして、子どもたちは自信を持って勉強に励む、そうした子どもたちが高校に進んできて夢にチャレンジする、そういう流れができる徳島県であってほしいと思いますので、それを徳島教育大綱の中に、うまく押し込めていけたらと思います。以上です。

＜飯泉知事＞

ありがとうございました。

教育長さんからは、学力テストの話がありました。中学で突然成績がよくなるわけでありませんので、当然、小学校のうちから積み重ねをというところで、ただ自信が持てていないというところ、そういった点をいかに社会的評価に晒していく、あるいはそれを知ってもらうと、そして後はその生徒さんたちを褒める、ここが一番重要なんではないかと思います。

当然そうなると、教員の皆さん方の研修が非常に重要になってくるということで、エビデンスに基づくしっかりとした教育ができる、そうした研修をやってはどうだろうかということでありました。

また、特別支援教育のお話がありまして、やはり当初ではなかなか自立が困難だと言われていたわけでありますが、特別支援教育ができ上がってきてから一変をしていくんですね。その中でもよく「教育・医療・福祉三位一体」と言うんですが、実は違うんですね、さっき教育長さんが言われた「自立」ここが一番重要な点になってまいります。

結果として４番目に「就労」が入ってきますね。であれば卒業してからというのでは困るわけで、３年間でしっかりと学んでいくと。で、身につける、それをさらに応用ができるということになると、当然卒業したときにもう引く手数多になるということで、結果として就職率が非常に高いがゆえに、多くの皆さん方が受験をする、なかなかみなと高等学園に入れない。ですが教育委員会としてはさらに国府支援学校をはじめとして様々なところにこれはリクルートしていく、これは中学の先生方あるいは教育委員会の皆さん方の役割ということになってくるわけであります。

そして、子どもさんたちが変な挫折をすることが自分の地位と少し高いところを目指せる、そうした形で自立もできる、こうした点をしっかり目指していっていただければと思います。どうもありがとうございました。

今日は、それぞれ教育委員の皆様方から様々な分野において御提言をいただいたところで、どれもこれも大変重要なものばかりでありますので、今回のこの部分をしっかりと骨子案に入れさせていただきまして、次なるところは今度は素案になるところであります。次回は統一地方選挙がございますので、４月以降に開催を予定をしているところでありま

す。今日いただきました点については、しっかりと咀嚼をさせていただきまして素案という形にレベルを上げ、また御審議を賜れればと思います。
　今日は大変お忙しい中、御協力をいただきまして、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

＜村山部長＞
　ありがとうございました。以上をもちまして令和４年度第３回徳島県総合教育会議を閉会します。本日はどうもありがとうございました。